

●令和２年度下期 第二種電気工事士 筆記試験 講評

【全体】

令和２年下期の第二種電気工事士筆記試験の問題を見てみると、午前の試験も午後の試験も過去に出題されたような問題が多かった。過去問題を十分勉強された方はそれ程難しい試験ではなかったのではないのでしょうか。

【午前試験】

詳細を見てみると、下期申込者が受験されました午前の試験は、

- ①計算問題で、公式を答える問題が問い４～問い７迄あり従来と感じが違ったのではないのでしょうか。
- ②問い１０で、「分岐回路の電線の太さ及びコンセントの組み合わせ」問題で５０Ａの配線用遮断器の設問が初めて出た。
- ③問い２０では、金属線ぴ工事でＤ種接地の省略が初めて出題された。金属線ぴ工事で線ぴ内に接続箇所がある場合はＤ種接地工事を省略することは出来ません。
- ④問い２７では電気計器の記号で久しぶりに直流回路で使用する「可動コイル形」が出題された。「可動コイル形」は２０１６年上期に出題されている。
- ⑤問い２７では、特定電気用品の組み合わせを答える問題で、例年の出題の仕方と変わったので戸惑ったのではないのでしょうか。
- ⑥配線図は、大きく変わった所はありませんでしたが、ＶＶＦ２ｍｍを使用する接続箇所にリングスリーブを使用する問題が出題された。引掛け問題になったのではないのでしょうか。

【午後試験】

上期からの振替受験者が受験した午後の試験は、

- ①計算問題は従来と大きく変わった所はなかった。
- ②問い１０で、「分岐回路の電線の太さ及びコンセントの組み合わせ」問題で４０Ａの配線用遮断器の設問が出た。
- ③問い２４では、回路計の使用方法や構造についての設問が出題された。
- ④問い２８では、保安に関する法律の目的などが出題された。
- ⑤問い４３では、壁面取付タイプの自動点滅器の写真が初めて出題された。
- ⑥配線図は、大きく変わった所はありませんでしたが、ＶＶＦ２ｍｍを使用する接続箇所にリングスリーブを使用する問題が出題された。引掛け問題になったのではないのでしょうか。

以上